

## 選考委員のコメント

○児童の実態を的確に捉え、問題点を把握した上で、方策が検討されている。また、取り組みの評価についても検討されており、母数は少ないながら、著作権に関するどのような力が付いたのかを適切に把握している。

○学習する意欲から必要な知識の習得、そして態度化という取り組み全体の指導の流れが明確である。

○成果と課題にある情報モラルの影の部分だけに焦点を当ててではなく、光の部分を考える資料は、活用者と著作者の双方の立場を子ども達が理解するには良かったのではないかと。もう少し具体的な実践内容が見えるとさらに良いと思う。

○様々な教材を組み合わせ、スムーズな流れを意識している点が良い。児童の実態に合わせたデザインにすることで、理解が深まっていくことが期待できる。

○授業実践の時期を年間の後期に持ってきた方が、児童の機器の操作経験や関連教科「国語科」との効果的な連携となると指導者も指摘している。今後の実践を期待したいと思う。

○3校時にわたる実践の過程で著作権意識の変容に関する効果測定を行い、著作権意識評価尺度を使用して評価している点がユニークである。伸びが少ない事項についての原因考察がないのが残念である。

○いろいろな参考文献を使用して、説得力のある内容であるとともに自作資料があり、指導に役立つとは思いますが、他の先生方がうまく活用できるか不安な点はある。また、子供たちにもう少し活動させる場面があるとよい。

○著作権教育を本格的な研究として分析しているとともに学級活動と道徳を関連させて授業デザインされており、自作教材も効果的である。児童の感想から、大きな成果が見える。他方、4年生では、内容的にレベルが高すぎると思う。しかしながら、5年生6年生と積み重ねていけば、定着すると思う

○著作権学習の構成としてはよくまとまっており、良い実践事例である。特に自作資料の「インターネットを使った調べ学習」は大変よく出来た教材であると思う。それはこの授業を受けた子供たちの「著作権の意識化」が高い伸びを示していることで証

明している。

○「著作権の意識化」と「許諾の必要性」という結果は大変興味深い。課題内容も興味深い。

○著作権教育のための自作資料を作成して授業実践している点、従来の指導方法の課題から新たな取り組みを行っている点、評価について、著作権意識評価尺度等評価規準を活用して、評価についてもきちんと数値で示している点が評価できる。1時間1時間の授業の流れが明確に分かるもの（指導案等）があると良かった。